



## Views

文 春日正信  
words Masanobu Kasuga

## SANDBOY

聴き手を旅情へといざなう魅惑のサウンドスケープ

サンドボーイはドイツ在住のトビアス・メグルによるソロ・プロジェクト。(コンポスト)のオーナー、マイケル・レインボース率いるビーンフィールドのメンバーとして活動していた彼は、現在はミュンヘン郊外の農場にあるスタジオで作曲とプロデュースを行っている。これまでの彼の歩みを集大成したデビュー・アルバム『ワンダーラスト』は、10人以上のミュージシャンとヴォーカリストが参加し、ダウンテンポ、アンビエント、ブラジリアン、ブローケン・ビーツまで幅広い分野をカバーしている。優しく叙情的なトーンが聴き手を旅情へといざなう、味わい深い作品だ。

### ■ アルバム・タイトル『Wanderlust (放浪への欲求)』の意味は?

トビアス: 「違う世界を旅して、新しい発見をしたい」という希望を込めたんだ。僕の音楽放浪から生まれたアルバムだからね。それぞれの曲がちよっとした旅への誘いになっているんだ。単調な反復を避けて、カラフルな情景を描きたかった。目の前の風景が少しずつ変化していった、楽しい発見ができるようなものにしたかったんだ。聴く人みんなにサンドボーイの世界を訪れてほしい。好奇心と開放的な空気がいっぱい詰まっているよ。

### ■ サンドボーイのサウンド・コンセプトは?

トビアス: アコースティックとエレクトロニックの要素を融合するバランスには、いつも気を付けている。サンプリングとプログラミングの可能性をことごとくまで追求したいと思う反面、僕の音楽には生楽器や肉声をもつヒューマン・タッチも不可欠なんだ。

### ■ アルバムに参加しているミュージシャンはどういう人たちなんですか?

トビアス: ミュージシャンのほとんどは、僕が80年代後半にやっていたファンク/ソウル・バンド“ダブル・ユー”のメンバーなんだ。バンドが解散してからも彼らとはずっと連絡を取っていて、いまようやく自分のスタジオでまた一緒に仕事をする事ができて本当にうれしい。ヴォーカリストに関しては、曲によって違う人物を起用したかったから、探すのに苦労したよ。

### ■ “Written In The Leaves”と“Pomegranate”ではブレイク・リフォームのヴォーカリスト、ナナーが

### 参加していますが、彼女を起用した理由は?

トビアス: この2曲にふさわしいヴォーカリストを僕はずっと探してたんだ。ブレイク・リフォームを初めて聴いたとき、「彼女しかない!」と思った。均整のとれた透明な声にはうっとりしちゃうよ。彼女と仕事をするのは楽しかったな。その声と同じく、彼女自身もじつに魅惑的な女性だからね。

### ■ “Pepe”という曲で歌っているバトリック・ギャモンという人について教えてください。この曲のオリジナルは、76年に彼が発表したものだと言いました。

トビアス: バトリックはとびきり魅力的な人物だった。彼の才能は並外れていたし、偉大なコンポーザーであり、キーボード・プレイヤーであり、パフォーマーだった。彼とは80年代後半にミュンヘンで知り合ったんだけど、もちろんそれ以前から大ファンだった。彼の最後のアルバムで、僕は作曲とプロデュースを手伝った。彼と一緒に過ごすことで、いろんなことを学んだよ。バトリックは96年にこの世を去った。僕はこのアルバムでどうしても彼に歌ってほしかったんだ。マネージャーに相談したら、“Pepe”のオリジナル・テープをくれた。そのおかげでこの曲が完成したんだ。僕にとってはかけがえのない1曲だよ。

### ■ あなたが共感するDJやプロデューサーは?

トビアス: 最近あまり生でDJのプレイを聴いてないんだけど、コンピレーションやラジオで聴いて気に入っているDJは、ラス・デューベリー、ダーク・ランプ、ライナー・トゥルービー。好きなプロデューサーは、クインシー・ジョーンズ、デイヴ・グルーシン、ラリー・ローゼン、トレヴァー・ホーン、ジャザノヴァだね。

### ■ 2003年のベスト・ディスクは?

トビアス: ブレイク・リフォーム『フラクチャーズ』!

### ■ これからの目標は?

トビアス: 自分のスキルをもっと磨いて、もっともつといい音楽を作りたい。デビュー・アルバムを作るまでに3年かかったけど、このアルバムに参加してくれたみんなと一緒に、音楽放浪の旅を続けていきたい。同時に新しい才能も発見していきたい。☑

サンドボーイのデビュー・アルバム『ワンダーラスト』は、2月18日、(ヴェレージ・アゲイン・アソシエーション)より発売!